

甲斐市立竜王小学校 自己評価書

平成29年2月7日 (火) 作成

校長 「 奥山 賢一 」 記述者 職名 主幹教諭 「 増坪 広夫 」

学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成

- ・た…助け合う子ども……………(情)
- ・つ…強い心を持った子ども…(意)
- ・の…伸びゆく体の子ども……(体)
- ・こ…根気強く学ぶ子ども……(知)

学校経営方針

- (1) 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 児童一人ひとりの自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3) 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4) 特色ある学校づくりに努める。
- (5) 安全・安心な学校づくりに努める。



1 全体評価

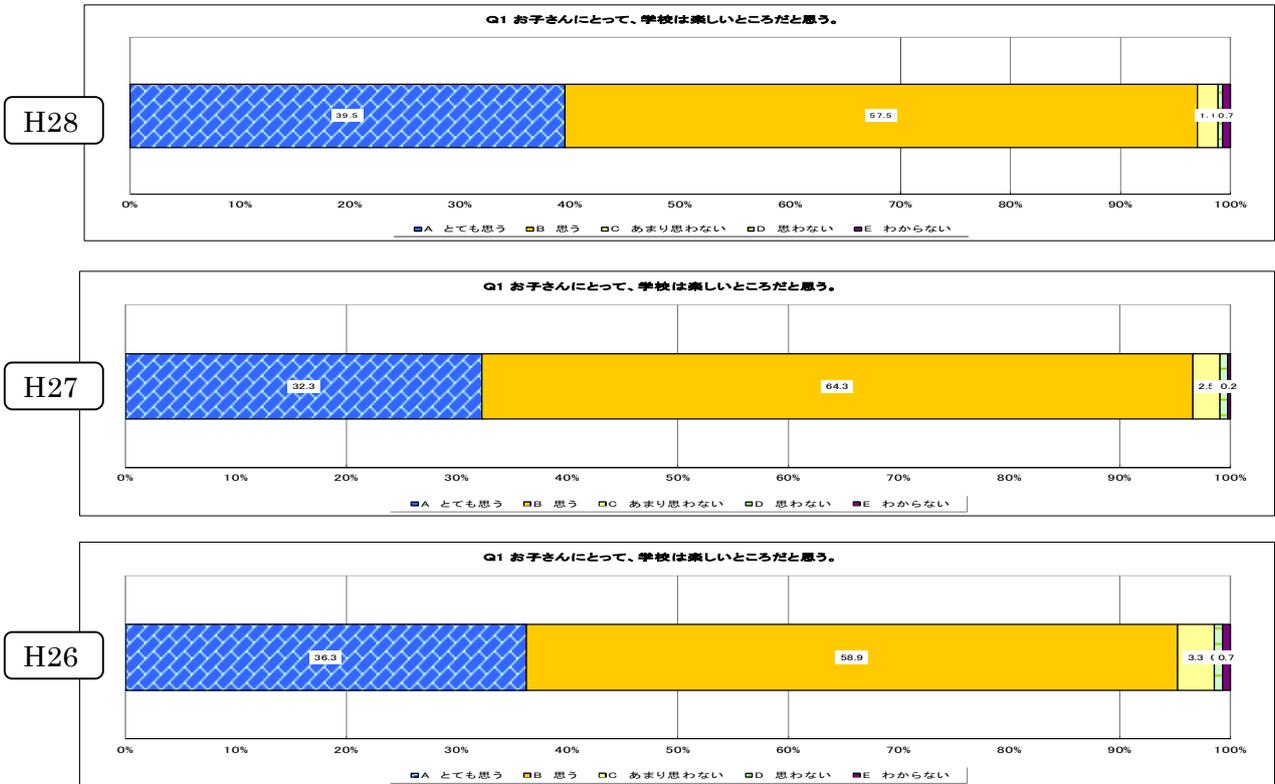
平成28年度の学校評価は、昨年度までは年2回の実施であったが、今年度からは年1回の実施となり、アンケート形式で11月に実施した。教職員の自己評価については、全6観点としてⅠ「学校教育目標・学校経営について」Ⅱ「学校運営について」Ⅲ「学習指導について」Ⅳ「生徒指導について」Ⅴ「地域との連携について」Ⅵ「学校の特色に関して」について実施した。それぞれについては、評価項目を5段階として（A：そう思う、B：ややそう思う、C：ややそう思わない、D：そう思わない、E：わからない）を設定した。今年度は1回の実施のため、昨年度の結果と一昨年度の結果を踏まえながら検討を行った。

○職員の自己評価の傾向は、全ての調査項目について（A：そう思う＋B：ややそう思う）が90%以上の高い値を示している。項目で見ると、49項目のうち40項目が100%、9項目が90%以上という内容であった。特に「生徒指導について」の項目では、すべて100%の肯定的な回答を示し、学習規律を統一した「明るく元気な竜の子15箇条」をもとに、安定した授業規律や生活規律の指導がより充実し、大きな成果が出てきたことを表している。また、学校教育目標に関する項目ではA（そう思う）の回答が多く、学校教育目標の具現化を目指し、校長による学校経営方針が職員の中に浸透したことも高い数値を示した要因の一つである。チーム学校（チームドラゴン 2016）として、すべての職員が協力姿勢をもって活動し、学校教育目標の具現化を図るべく日々努力をしている。全てが順調に進んでいるという訳ではないが、着実に前進しつつあることが今回の調査から感じられた。

○児童アンケートについても、昨年度と同様に、児童が学校生活に満足している状態を示している。最初の設問にある「学校は楽しいですか。」という問いに対しては、肯定的意見（Aとても楽しい＋B楽しい）が95%以上となり、否定的意見（Cややそう思わない＋D思わない）は5%未満と低い数値を示している。以下のH26、H27、H28のグラフによると、生活習慣が安定し楽しい学校生活を送っているこの3年間の状況がうかがえる。今後は、否定的な回答を示した児童について細かな見取りを行い、Q-U調査との相関を見ながら、きめ細かな指導を行っていくことが必要である。



○保護者のアンケートについても、下記のグラフのように「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」という設問に対し、肯定的意見が97.5%と高い数値を示した。否定的意見も一昨年、昨年、今年と減少傾向にあることが以下のグラフからうかがえる。



2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

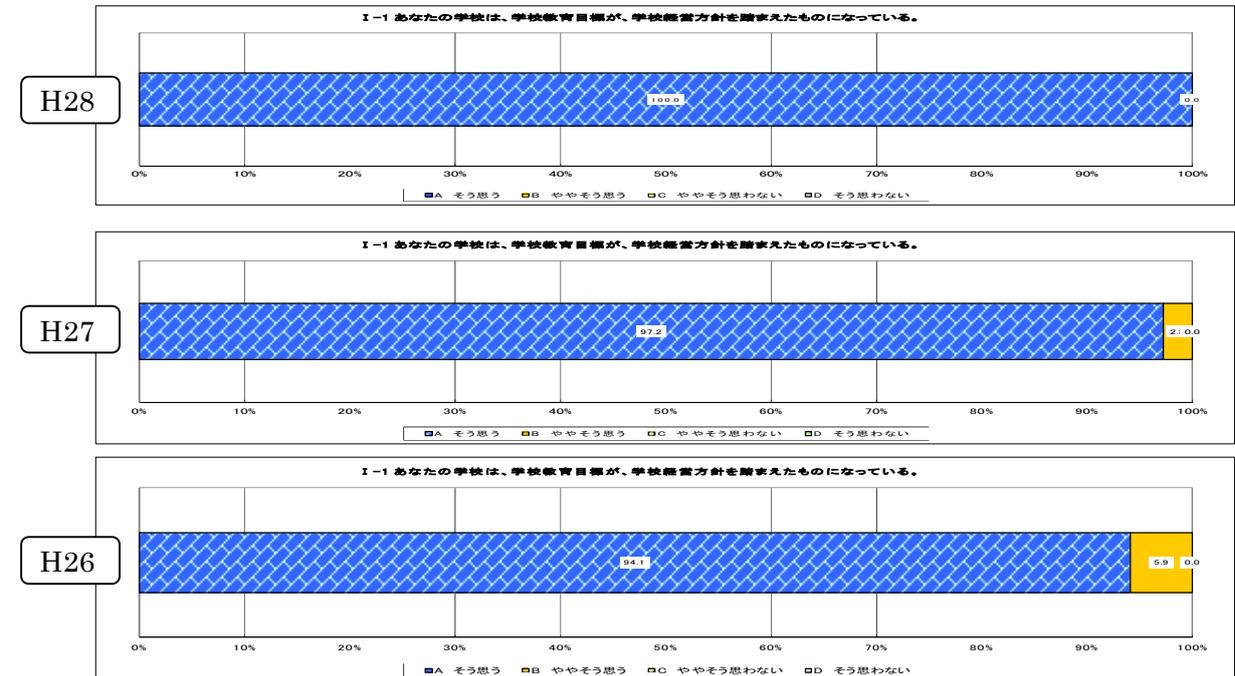
I 学校教育目標に関して・学校経営について

「学校教育目標に関して・学校経営について」では、A（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が、1項目を除いてすべて100%の高い肯定率となった。特に、「学校教育目標が学校経営方針を踏まえたものになっているか」の設問では、A（そう思う）の値が今年度は100%となり、年々高くなっていることから教職員すべてが学校教育目標を意識した教育活動を行っているといえる。

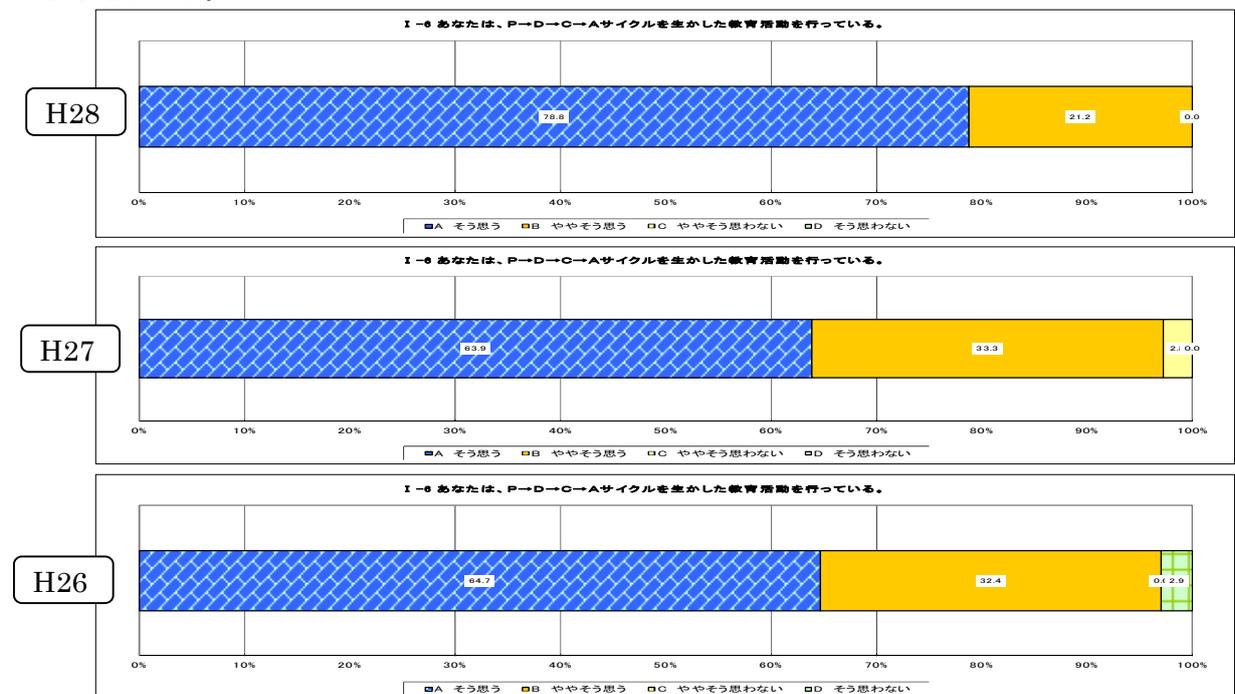
達成状況

| 番号 | 項目 | H28評価 | | | | H27後期評価 | | | | H26後期評価 | | | |
|----|--|-------|--------|--------|------|---------|--------|--------|------|---------|--------|--------|------|
| | | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D |
| | | そう思う | ややそう思う | やや思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | やや思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | やや思わない | 思わない |
| 1 | あなたの学校は、学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている。 | 100.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 97.2 | 2.8 | 0.0 | 0.0 | 94.1 | 5.9 | 0.0 | 0.0 |
| 2 | あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。 | 93.9 | 6.1 | 0.0 | 0.0 | 86.1 | 13.9 | 0.0 | 0.0 | 78.8 | 21.2 | 0.0 | 0.0 |
| 3 | あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。 | 97.0 | 3.0 | 0.0 | 0.0 | 94.4 | 5.6 | 0.0 | 0.0 | 85.3 | 14.7 | 0.0 | 0.0 |
| 4 | あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。 | 72.7 | 27.3 | 0.0 | 0.0 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 78.8 | 21.2 | 0.0 | 0.0 |
| 5 | あなたの学校は、P→D→C→Aサイクルで、教育活動が取り組まれている。 | 90.9 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 86.1 | 13.9 | 0.0 | 0.0 | 73.5 | 26.5 | 0.0 | 0.0 |
| 6 | あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。 | 78.8 | 21.2 | 0.0 | 0.0 | 63.9 | 33.3 | 2.8 | 0.0 | 64.7 | 32.4 | 2.8 | 0.0 |
| 7 | あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。 | 57.6 | 33.3 | 9.1 | 0.0 | 41.7 | 58.3 | 0.0 | 0.0 | 38.2 | 61.8 | 0.0 | 0.0 |
| 8 | あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。 | 78.8 | 21.2 | 0.0 | 0.0 | 82.4 | 17.6 | 0.0 | 0.0 | 81.8 | 18.2 | 0.0 | 0.0 |

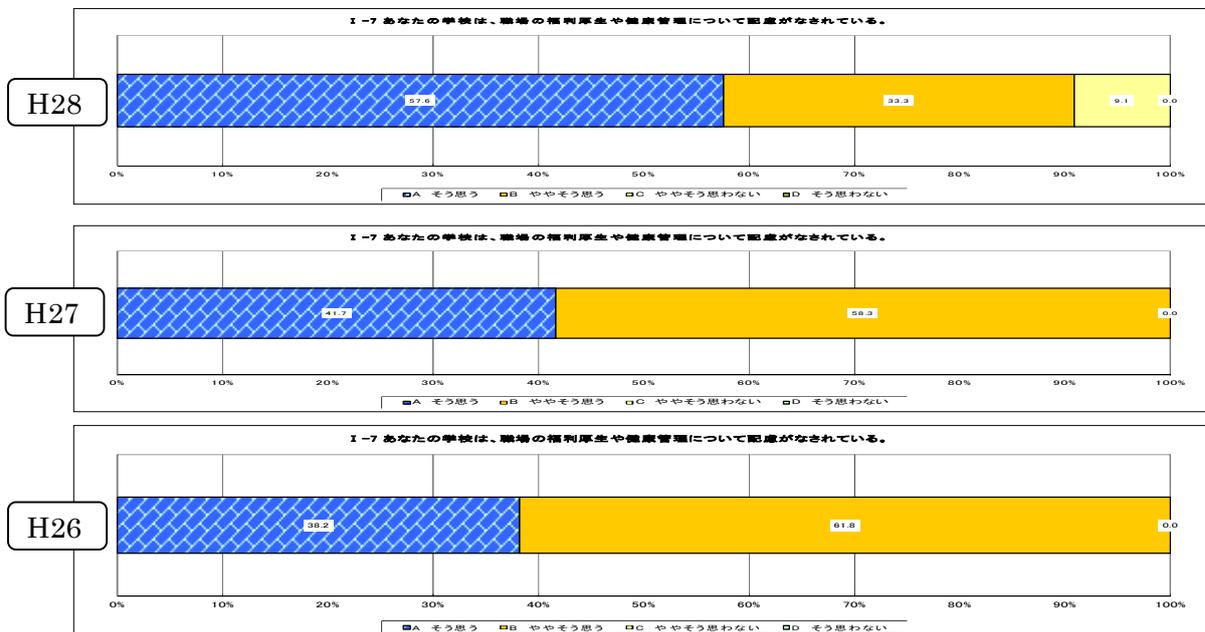
○学校教育目標が、学校経営方針を踏まえたものになっていることが、職員に深く浸透してきたことが以下のグラフからうかがえる。



また、「PDCAサイクルを生かした教育活動を行っている」という設問では、今年度初めて、A（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が100%の肯定率となった。否定的意見がなくなり、教職員が児童の学力向上に向け授業改善に取り組み、学校現場に山積する教育課題について解決しようとする姿勢と日々の努力の成果が表れている。前例踏襲ではなく、児童にとって何が必要で何をすべきか、職員全体がよりよいものを生み出そうとする雰囲気が醸成されてきたと以下のグラフから考えられる。



「職場の福利厚生と健康管理についての配慮がなされている」の設問については、A（そう思う）の評価が昨年に比べ15.9ポイント高くなり、この3年間で配慮がなされていると感じている職員が増えたように見えるが、否定的意見が9.1%あった。運営委員会で協議したが、職員の福利厚生と健康管理については高いと感じられ、早く帰れるときは、早く帰れるように改善を図りたい。



改善策

・「職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている」の項目については、否定的な意見が少なからずあることから、個別にヒアリングなどを設定し、どんなことが必要なのかを考え改善していきたい。また、仕事に熱心な職員も多く、帰りの時間が遅い傾向があるので、学年で早く帰るなど、帰れるときは早めに帰る習慣づくりを進める。

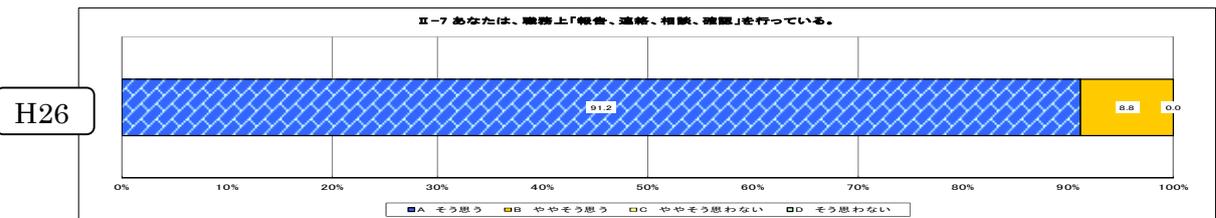
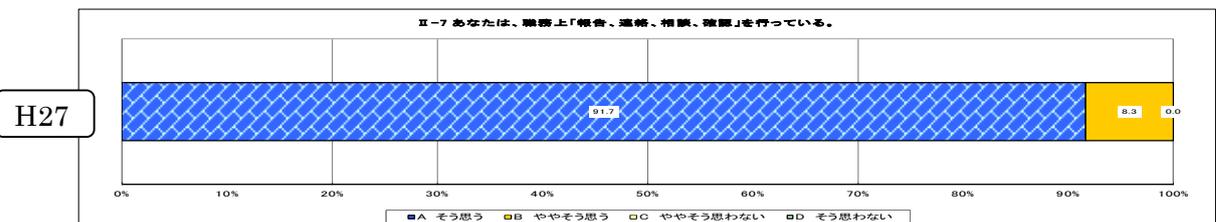
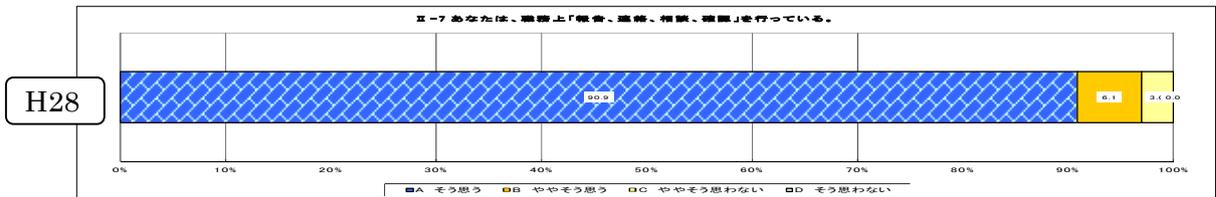
II 学校運営について

「学校運営について」の設問では、A（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が、6項目が100%、3項目も96%以上と高い肯定率となっている。ほぼ前年度と同様の結果となり、おおむね良好な学校運営がなされているといえる。それぞれの職員が自分の校務分掌の責務を果たし職員会議や校内研究会に積極的に参加していることが感じられる。また、職員間の信頼関係も高く、相互に連絡を取り合いながら学校運営に関わっているといえる。しかし、「報告・連絡・相談・確認を行っている」「校内研究に主体的に関わっている」「児童・家庭に目標の徹底を図っている」に否定的な意見が若干であるが見られたことについては、後述のように改善を図りたい。

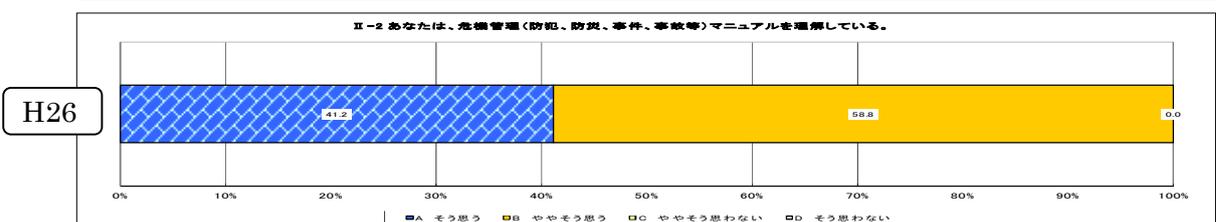
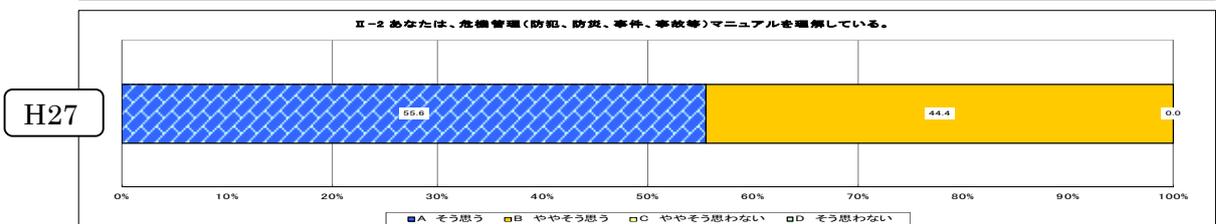
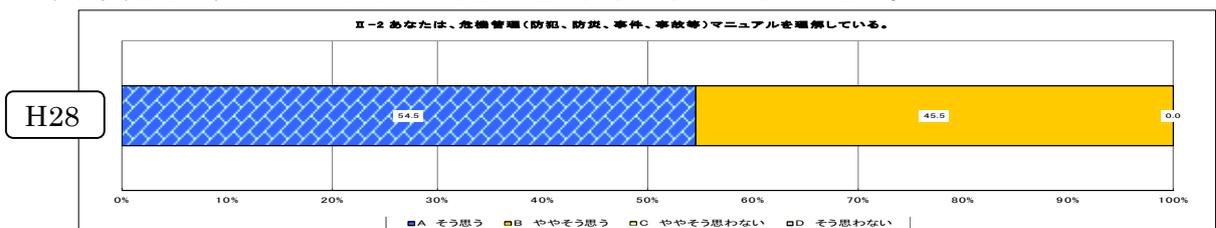
達成状況

| 番号 | 項目 | H28評価 | | | | H27後期評価 | | | | H26後期評価 | | | |
|----|---|-------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|
| | | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D |
| | | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない |
| 1 | あなたは、校舎内外の施設設備を定期的に点検し、結果を的確に処理・報告（整備・保全）している。 | 72.7 | 27.3 | 0.0 | 0.0 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 |
| 2 | あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。 | 54.5 | 45.5 | 0.0 | 0.0 | 55.6 | 44.4 | 0.0 | 0.0 | 41.2 | 58.8 | 0.0 | 0.0 |
| 3 | あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。 | 75.8 | 24.2 | 0.0 | 0.0 | 80.6 | 19.4 | 0.0 | 0.0 | 79.4 | 20.6 | 0.0 | 0.0 |
| 4 | あなたの校務分掌は、学校運営上、機能している。 | 71.9 | 28.1 | 0.0 | 0.0 | 77.1 | 22.9 | 0.0 | 0.0 | 66.7 | 33.3 | 0.0 | 0.0 |
| 5 | あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。 | 76.7 | 23.3 | 0.0 | 0.0 | 77.8 | 22.2 | 0.0 | 0.0 | 60.6 | 39.4 | 0.0 | 0.0 |
| 6 | あなたは、他の教職員と相互理解や信頼関係を深めて、教育活動にあたっている。 | 87.9 | 12.1 | 0.0 | 0.0 | 88.9 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 79.4 | 20.6 | 0.0 | 0.0 |
| 7 | あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。 | 90.9 | 6.1 | 3.0 | 0.0 | 91.7 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 91.2 | 8.8 | 0.0 | 0.0 |
| 8 | あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。 | 64.5 | 32.3 | 3.2 | 0.0 | 69.4 | 27.8 | 2.8 | 0.0 | 60.6 | 33.3 | 3.0 | 3.0 |
| 9 | あなたは、教育活動の円滑な実施のために、児童や家庭に対して目標の徹底を図っている。 | 68.8 | 28.1 | 3.1 | 0.0 | 61.1 | 38.9 | 0.0 | 0.0 | 60.6 | 36.4 | 0.0 | 3.0 |

「報告・連絡・相談・確認を行っている」の項目では、A（そう思う）が90%以上と高い肯定率となり、以下のグラフからも全体的には連絡調整がうまく行われていることがわかる。しかし今年度はC（ややそう思わない）が3%あったことから、様々な対応を迅速に確実に行うためにも「ほう・れん・そう」のシステムがきちんと行われていることが大切である。本校では、校長への報告や連絡は学年主任が代表して行い、その後の学年間の打ち合わせをしっかりと行っているので、職員全体としての「ほう・れん・そう」の意識は高まっているといえる。

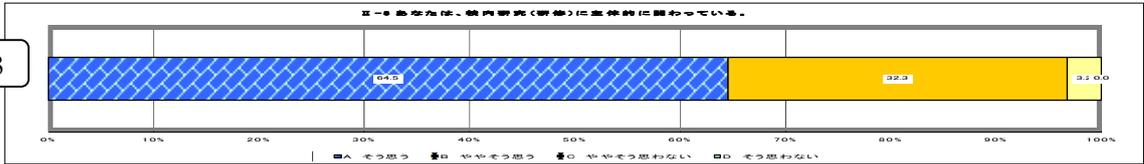


「危機管理マニュアルを理解しているか」の設問では、以下のグラフからほぼ例年と変わらない結果であった。内容的には、A（そう思う）とB（ややそう思う）の評価が、各50%の値であったことから、児童の安全を最優先することからも危機管理マニュアルをしっかりと確認する必要がある。本校では、年4回の防災訓練を行っているが、予告なしの訓練など実践的な取り組みから、児童・教職員ともに突然来る地震への対応に近い体験をすることができた。

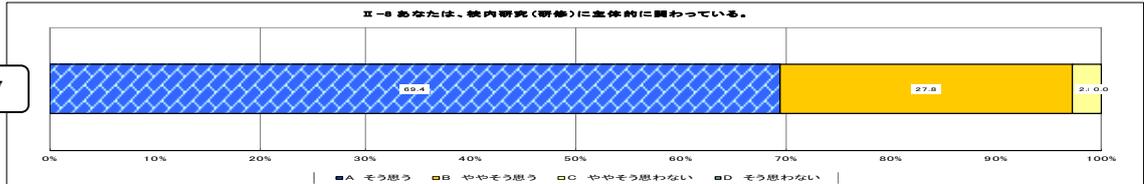


「校内研究へ主体的に関わっている」の項目では、A（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が96%以上の肯定率となり、教職員の資質と児童の学力の向上に向けて職員が一丸となって日々の教育実践に努めてきた。この3年間で向上してきた状況がうかがえる。今年度も甲斐市教育委員会から「確かな学力の育成推進事業」の指定を受け、1月に公開研究会を行い、竜小で取り組んでいる教育活動の成果を広めることができた。

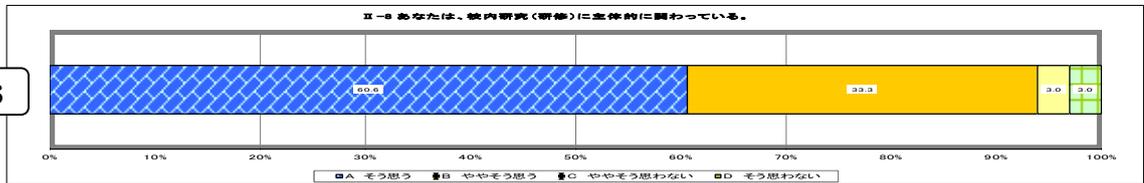
H28



H27

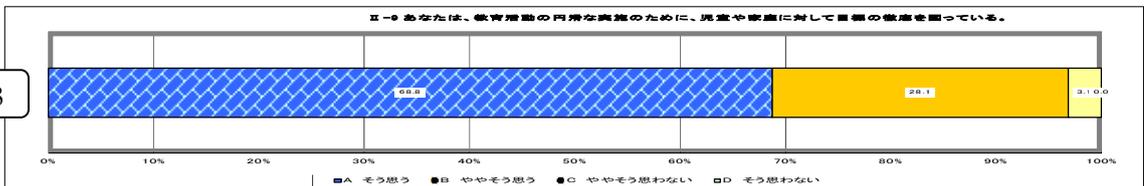


H26

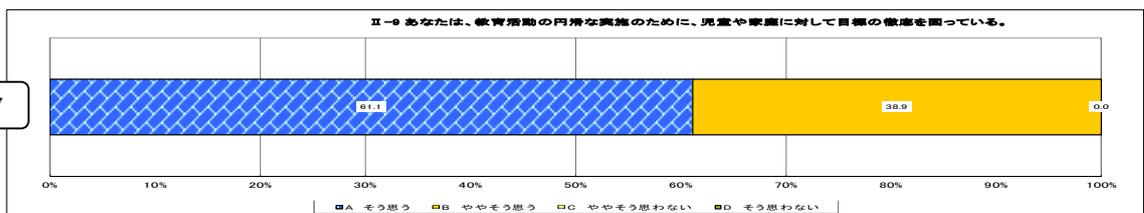


「児童や家庭に対して目標の徹底を図っている」の項目では、A（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が96%以上の肯定率となり、3年間を通して向上してきたことがうかがえる。学習規律を揃え、授業の板書では目標などを黄色線で囲み、わかりやすく提示してきたことなどの成果といえる。また、6年では家庭学習強化月間を設定することで、内容がより深まるように指導してきた。今後、他の学年にも反映させていきたい。

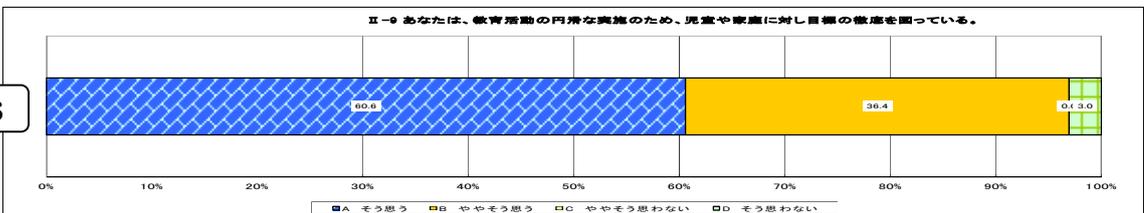
H28



H27



H26



改善策

- ・様々な教育課題に対して迅速で確実な対応をするために「報告・連絡・相談・確認」システムを徹底し、情報を共有しながら連絡調整を密に行い、教職員集団としてのチームワークを高めていく。
- ・児童の安全を最優先するためにも危機管理マニュアルについて、しっかり確認を行っていく。
- ・「目標の設定を行う」では、目標が明確な授業を行うとともに、家庭学習にも広げ、ただやるのではなく「何のために」やるのかを周知しながら教育活動を行うよう改善を図りたい。

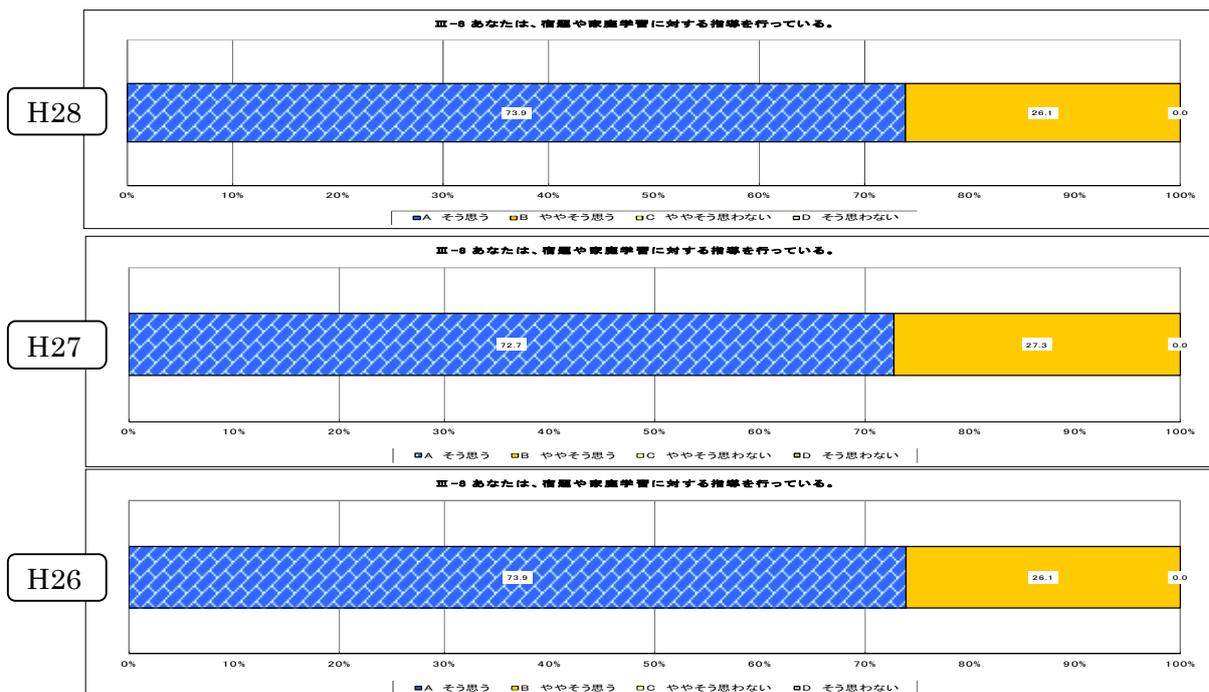
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

「学習指導について」の設問では、A（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が7項目で100%，3項目で90%以上の高い肯定的な結果となった。全般的におおむね満足な学習指導への取り組みが行われていることを示している。学習規律を定着させ児童の学力向上を目指した，昨年度からの取り組みの成果だといえる。

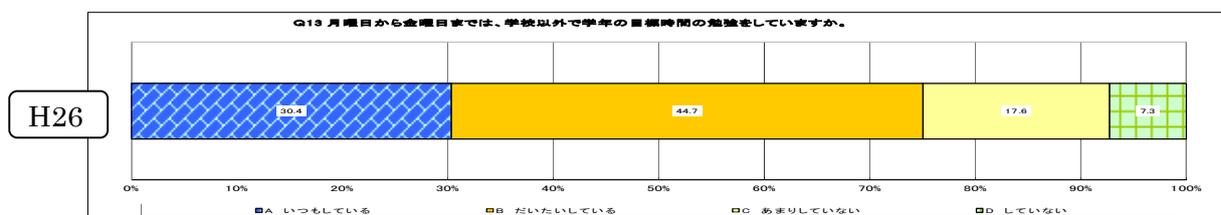
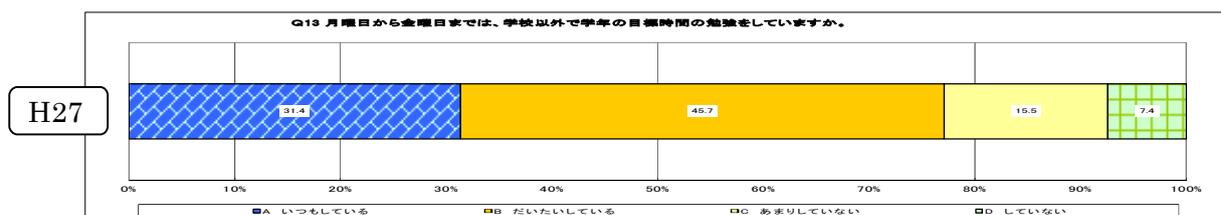
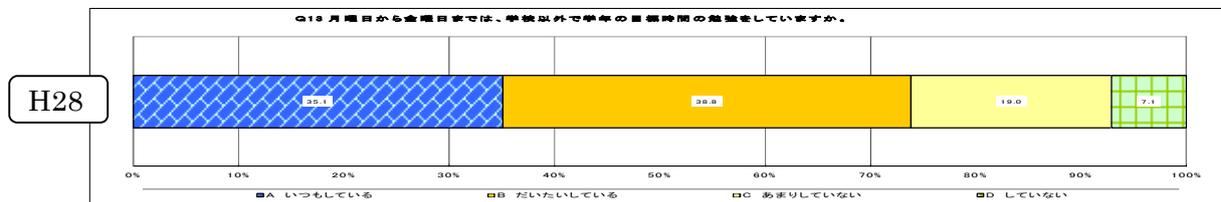
| 番号 | 項目 | H28評価 | | | | H27後期評価 | | | | H26後期評価 | | | |
|----|---|-------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|
| | | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D |
| | | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない |
| 1 | あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 75.8 | 24.2 | 0.0 | 0.0 | 74.1 | 25.9 | 0.0 | 0.0 |
| 2 | あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。 | 52.0 | 48.0 | 0.0 | 0.0 | 75.8 | 24.2 | 0.0 | 0.0 | 42.9 | 57.1 | 0.0 | 0.0 |
| 3 | あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。 | 64.0 | 36.0 | 0.0 | 0.0 | 97.0 | 3.0 | 0.0 | 0.0 | 81.5 | 18.5 | 0.0 | 0.0 |
| 4 | あなたは、個に配慮した授業を行っている。 | 56.0 | 40.0 | 4.0 | 0.0 | 63.6 | 36.4 | 0.0 | 0.0 | 67.9 | 32.1 | 0.0 | 0.0 |
| 5 | あなたは、評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている。 | 33.3 | 66.7 | 0.0 | 0.0 | 33.3 | 60.6 | 6.1 | 0.0 | 38.5 | 61.5 | 0.0 | 0.0 |
| 6 | あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。 | 80.8 | 15.4 | 3.8 | 0.0 | 72.7 | 27.3 | 0.0 | 0.0 | 71.4 | 28.6 | 0.0 | 0.0 |
| 7 | あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。 | 44.0 | 56.0 | 0.0 | 0.0 | 57.6 | 42.4 | 0.0 | 0.0 | 37.0 | 63.0 | 0.0 | 0.0 |
| 8 | あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 72.7 | 27.3 | 0.0 | 0.0 | 73.9 | 26.1 | 0.0 | 0.0 |
| 9 | あなたは、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすような活用型の学習活動に取り組んでいる。 | 54.2 | 37.5 | 8.3 | 0.0 | 59.4 | 37.5 | 3.1 | 0.0 | 37.0 | 59.3 | 3.7 | 0.0 |
| 10 | あなたはALTとの外国語（英語）学習を実施する中で、国際理解を高める指導を行っている。 | 60.9 | 39.1 | 0.0 | 0.0 | 46.9 | 50.0 | 3.1 | 0.0 | 57.1 | 42.9 | 0.0 | 0.0 |

達成状況

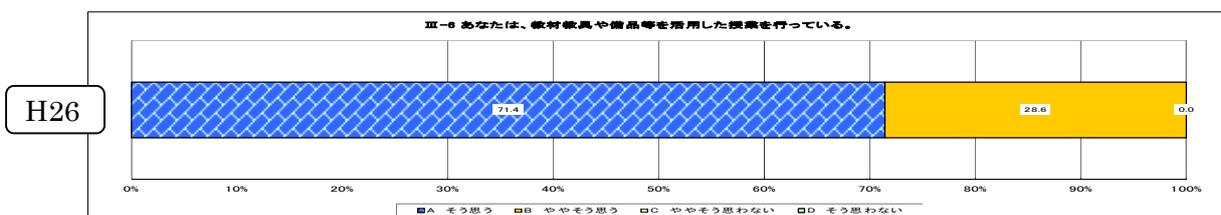
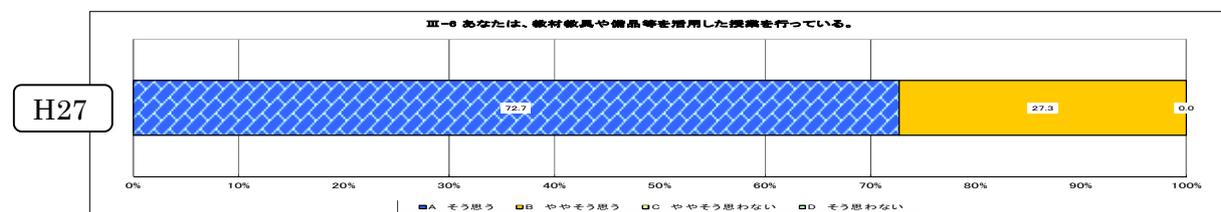
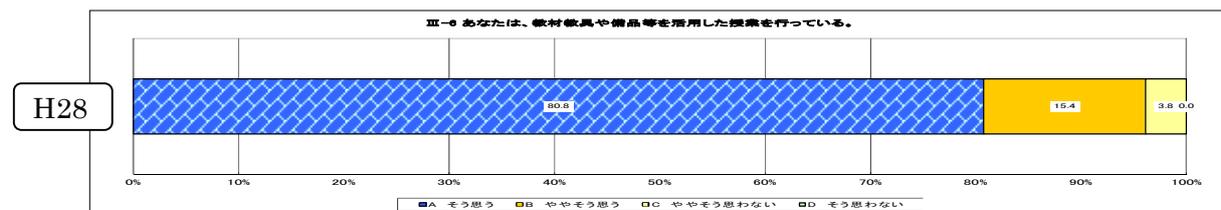
「宿題や家庭学習への指導を行っている」の設問については、下記のグラフのように肯定的な意見が100%であった。本校では、宿題のほかに自主学習を課題として出しているが、担任がコメントを書くことで意欲化を図っている。



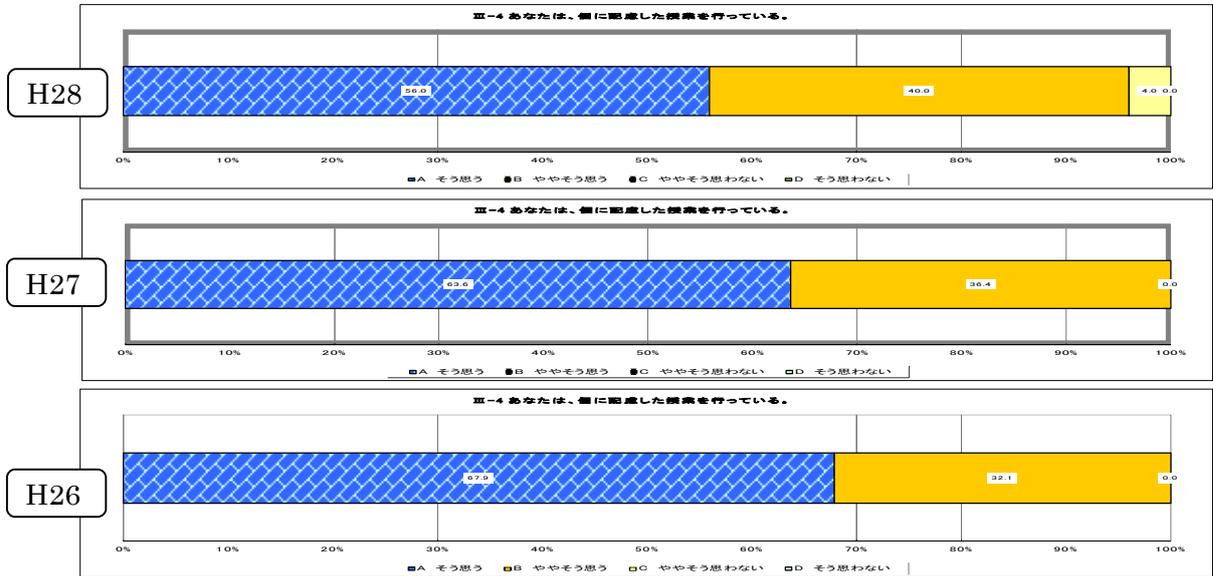
家庭学習については、甲斐市の創甲斐教育では「学年×10+10分」が目安となっている。児童のアンケートからは、次のグラフのように3年間で大きな変化はないが、A（いつもしている）が30%台と低く、学力の確実な定着を図る意味でも、毎日の家庭学習を続けることが必要である。そのためには、毎日の宿題をしっかりとやり、決めた時間は学習する習慣をつけたい。家庭学習は宿題だけではないので、本校の「家庭教育のてびき」を使って改善を図っていく。



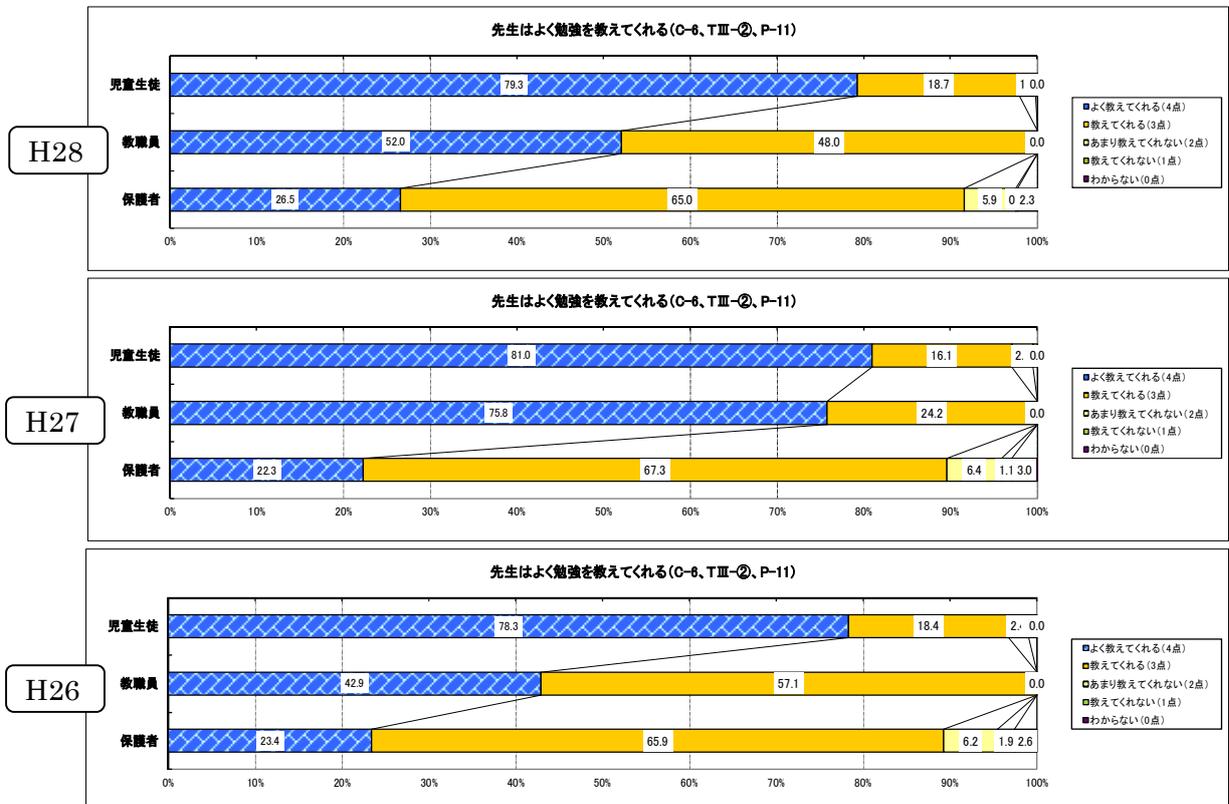
「教材教具や備品を活用した授業を行っている」の設問では、A（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が96.2%と高い肯定的な結果となった。3年間で比べると、今年度はAが8ポイント向上している。教室にあるパソコンをデジタル教科書が使える高いOSに切り替えたことや、タブレット端末を活用して児童のノートを大型テレビに映して自分の考えを発表する授業を行うなど、ICT機器の活用が日常化されてきていることも要因の一つと考えられる。しかし、否定的な意見のC（ややそう思わない）が3.8%あることから改善が必要である。



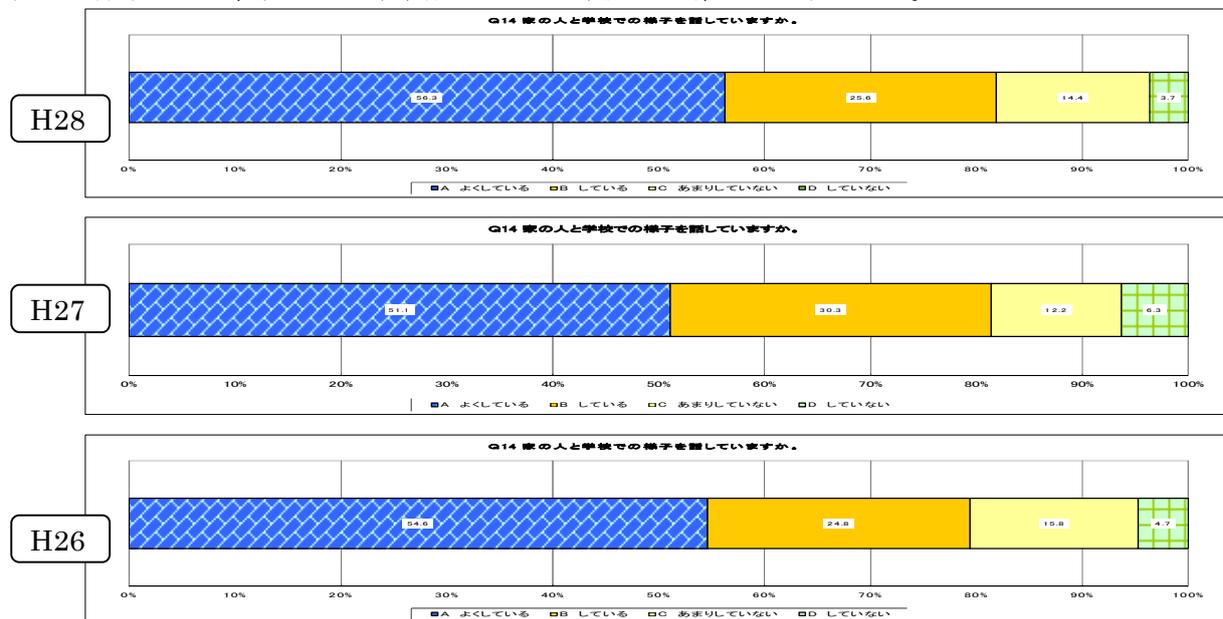
「個に配慮した授業を行っている」の設問では、下のグラフのようにA（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が96%と高い肯定的な結果となった。個別に丁寧な指導を毎日の授業で行っていることがわかる。しかし、次のグラフにあるように、A（そう思う）が減少傾向にあり、C（ややそう思わない）が今年度あることから、校内研究会で用いているタブレットによるポートフォリオを使った細かな見取りを行う方法を共有していきたい。



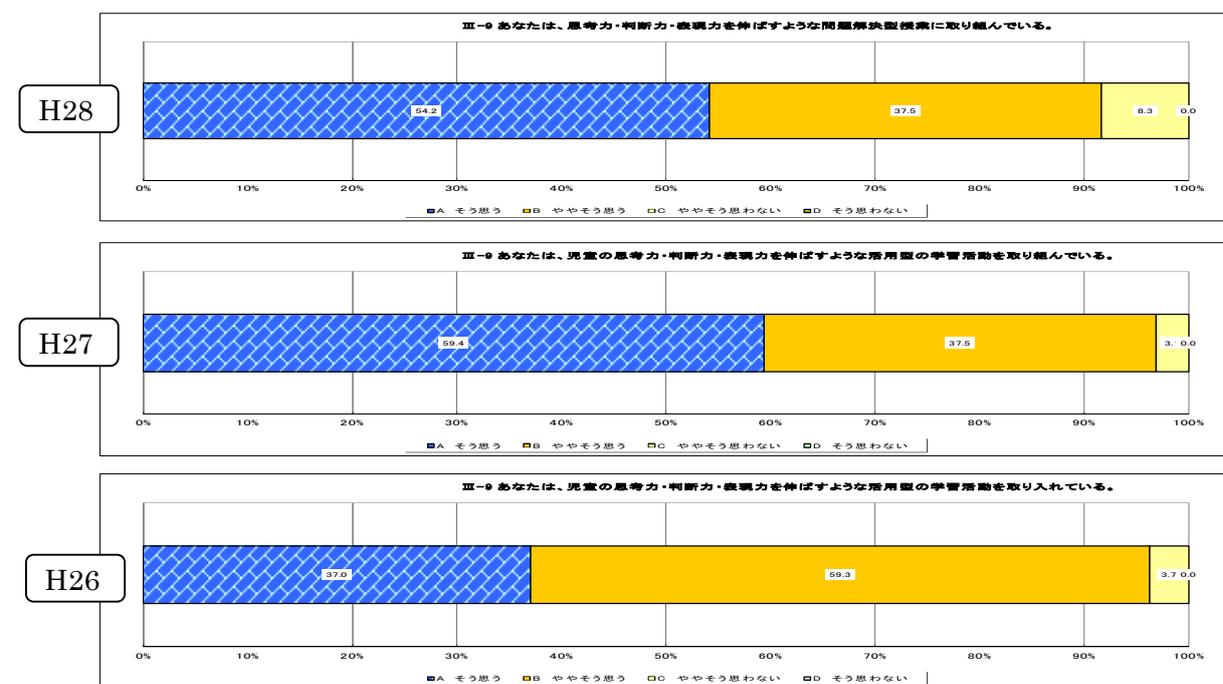
学習指導に関して児童と保護者含めた相関図を見ると、「先生はよく勉強を教えてくれる」の設問に対し、教職員・児童・保護者に大きな開きが見られた。以下の3年間のグラフを見ても、児童はA（よく教えてくれる）の評価が約80%と高く、教職員が丁寧に教えてくれていると感じている児童が多いことがわかる。しかし、保護者はA（よく教えてくれている）評価は20%台と低い傾向にある。保護者が学校の様子を知る機会が少ないことなどが考えられる。



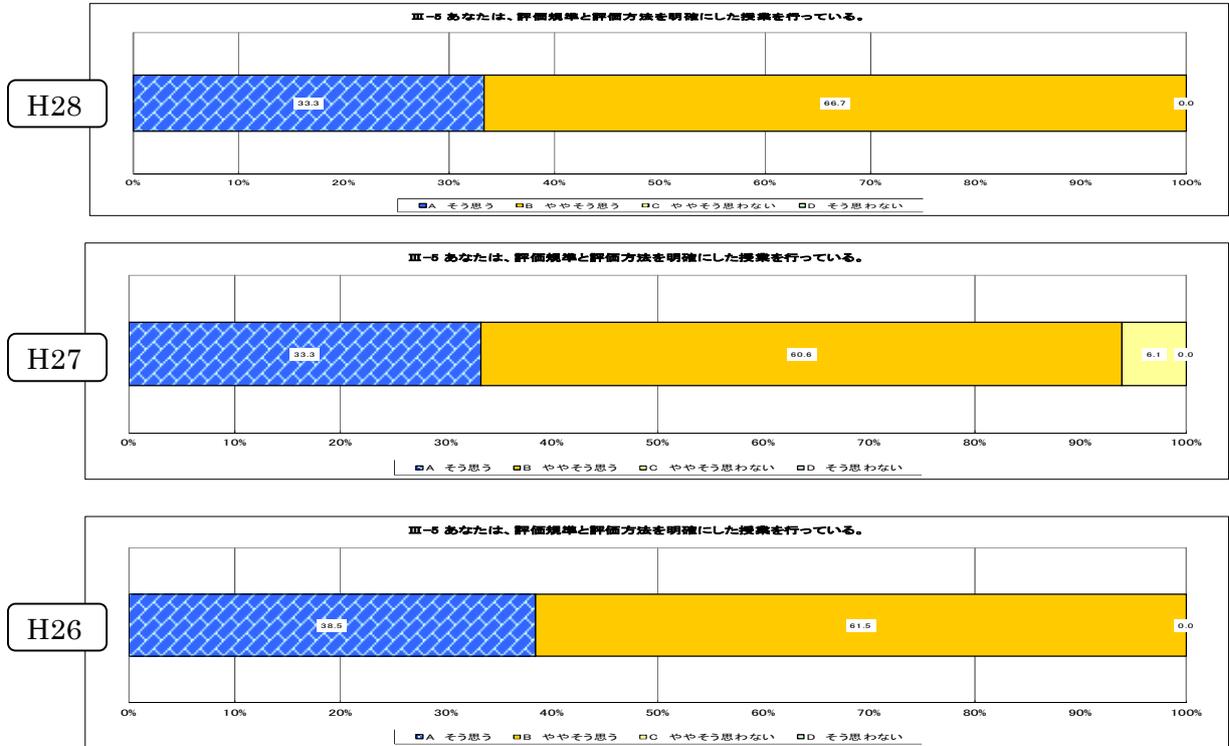
「家の人と学校の様子を話していますか」の児童用アンケートからは、3年間の傾向として肯定的な意見は80%を超えているが、A（よくしている）が50%台であり、学校の様子がきちんと家の人に伝わっていないことも原因の一つであると考えられる。家での会話を促進し、児童が学校の様子を話すことで、先ほどの関連図にあるギャップの解消を目指したい。



「思考力・判断力・表現力を伸ばすような活用型の学習活動に取り組んでいる」の設問については、以下のグラフからA（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が90%以上と高い肯定的な結果となった。日々の授業で、基礎基本を習得し、既習したことを活用して問題を解決する「問題解決型授業」を行い、児童の学力向上に向けて努力している姿がうかがえる。ただA（そう思う）が減少傾向にあり、C（ややそう思わない）が今年度は増えたことから、職員間の授業参観の機会を増やし、問題解決型の授業の進め方などについての理解を深めていきたい。



「評価規準と評価方法を明確にした授業を行っている」の設問については、次のグラフから今年度はC（ややそう思わない）がなくなり、肯定意見が100%となった。A（そう思う）が3年間とも30%台と低く、児童の実態に合わせた規準とどのような方法で評価するのかを設定する難しさが表れている。本校の問題解決型授業では、学習課題を自力解決している時に各児童の考えを教職員が見取り、集団思考の場面で評価規準に合わせて段階的に指名することで、友達の考えを聞き、自分の考えを深める学習活動を行っているが、その成果が表れているといえる。



改善策

- ・学習規律を中心とした授業改善や授業力向上の成果として、学力がV字好転してきた。今後は家庭と連携しながら家庭学習の質を高め、さらなる学力の向上を目指したい。
- ・教材教具や備品の活用や個に配慮した授業を広めるために、年度当初にICT機器研修会を開催し、機器操作を身につけてもらう。それでも教職員がICT機器の操作などで不安をもっているのならば専門的な知識を持った職員がサポートするなど、組織的な体制で対処していく。

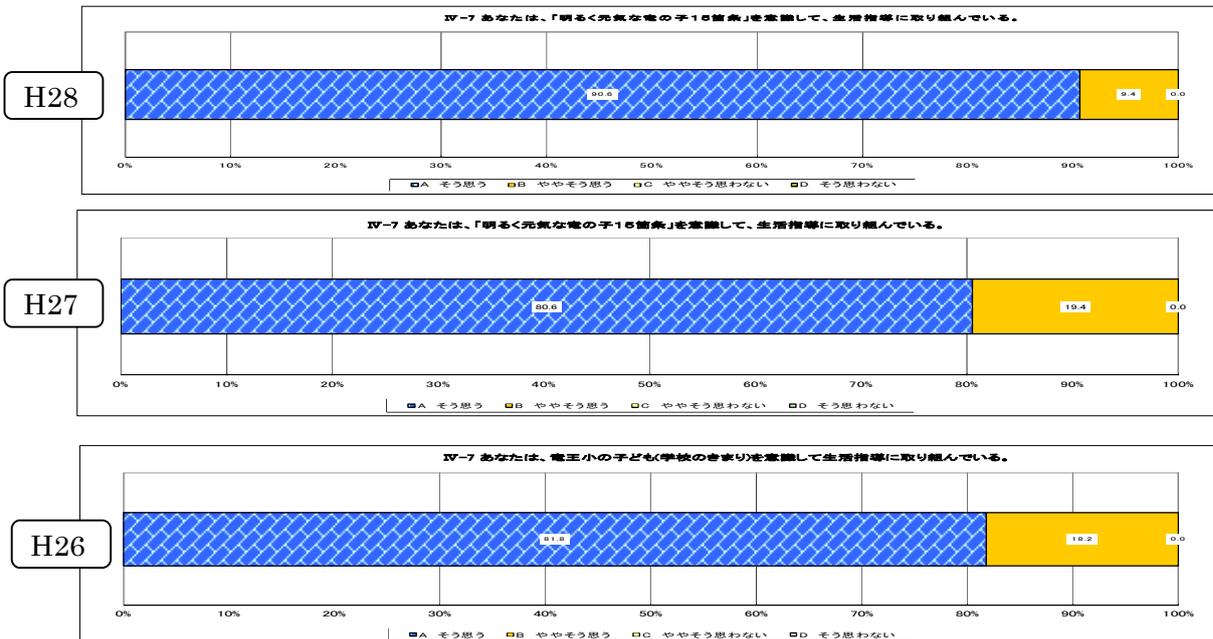
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

「生徒指導について」は、下記のグラフにあるように、すべての項目でAとBの合計が100%の高い数値を示し、全体的に満足な指導が行われているといえる。特に向上したのは、「明るく元気な竜の子15箇条を意識して指導している」と「地域との連携が図られている」「生き方教育を実態に応じて行っている」についての項目で、今年度は昨年度と比べ10ポイントほど向上している。

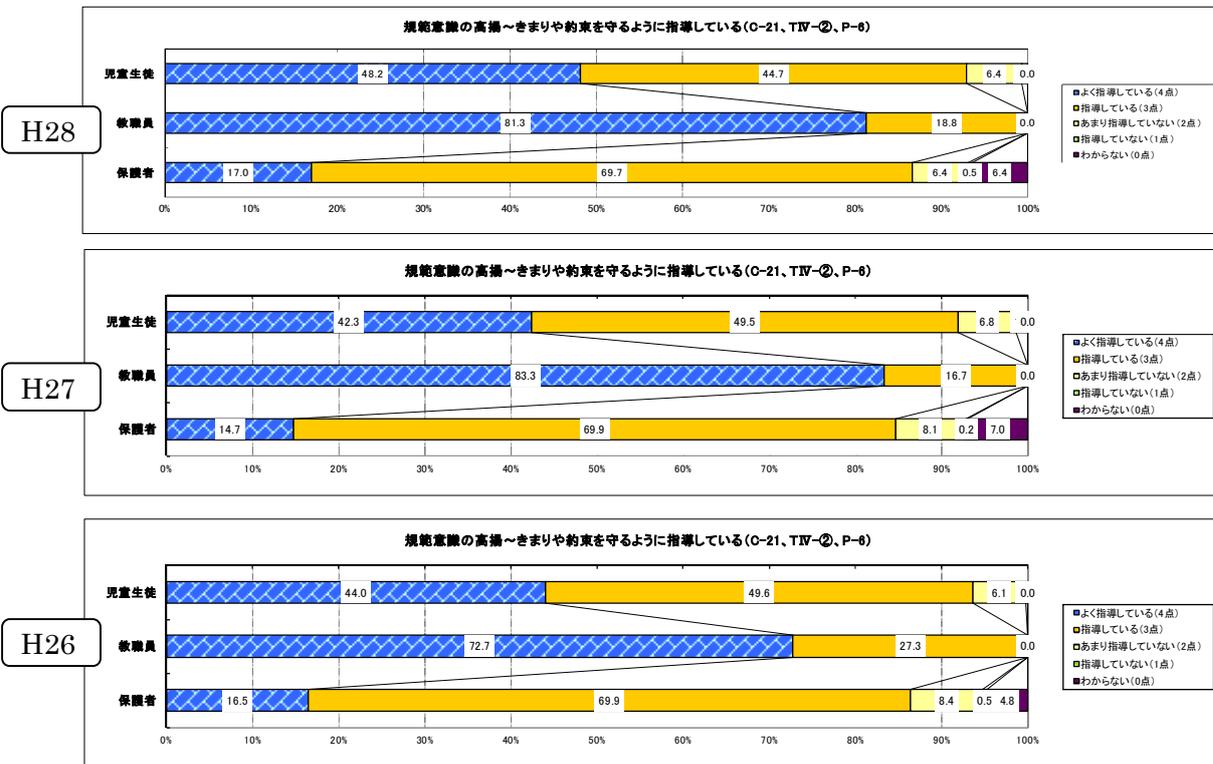
達成状況

| 番号 | 項目 | H28評価 | | | | H27後期評価 | | | | H26後期評価 | | | |
|----|---|-------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|
| | | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D |
| | | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない |
| 1 | あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。(対：児童生徒) | 87.5 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 88.9 | 11.1 | 0.0 | 0.0 | 72.7 | 27.3 | 0.0 | 0.0 |
| 2 | あなたは、児童生徒の規範意識をはぐむ指導に取り組んでいる。 | 81.3 | 18.8 | 0.0 | 0.0 | 83.3 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 72.7 | 27.3 | 0.0 | 0.0 |
| 3 | あなたは、生き方教育(キャリア教育・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。 | 53.6 | 46.4 | 0.0 | 0.0 | 45.7 | 54.3 | 0.0 | 0.0 | 50.0 | 50.0 | 0.0 | 0.0 |
| 4 | あなたは、問題行動(いじめ、不登校等)の早期発見・早期対応ができています。 | 79.3 | 20.7 | 0.0 | 0.0 | 77.1 | 22.9 | 0.0 | 0.0 | 60.0 | 40.0 | 0.0 | 0.0 |
| 5 | あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。 | 84.4 | 15.6 | 0.0 | 0.0 | 83.3 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 84.8 | 15.2 | 0.0 | 0.0 |
| 6 | あなたの学校は、児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている。 | 87.1 | 12.9 | 0.0 | 0.0 | 77.8 | 19.4 | 2.8 | 0.0 | 78.8 | 21.2 | 0.0 | 0.0 |
| 7 | あなたは、「明るく元気な竜の子15箇条」を意識して、生活指導に取り組んでいる。 | 90.6 | 9.4 | 0.0 | 0.0 | 80.6 | 19.4 | 0.0 | 0.0 | 81.8 | 18.2 | 0.0 | 0.0 |

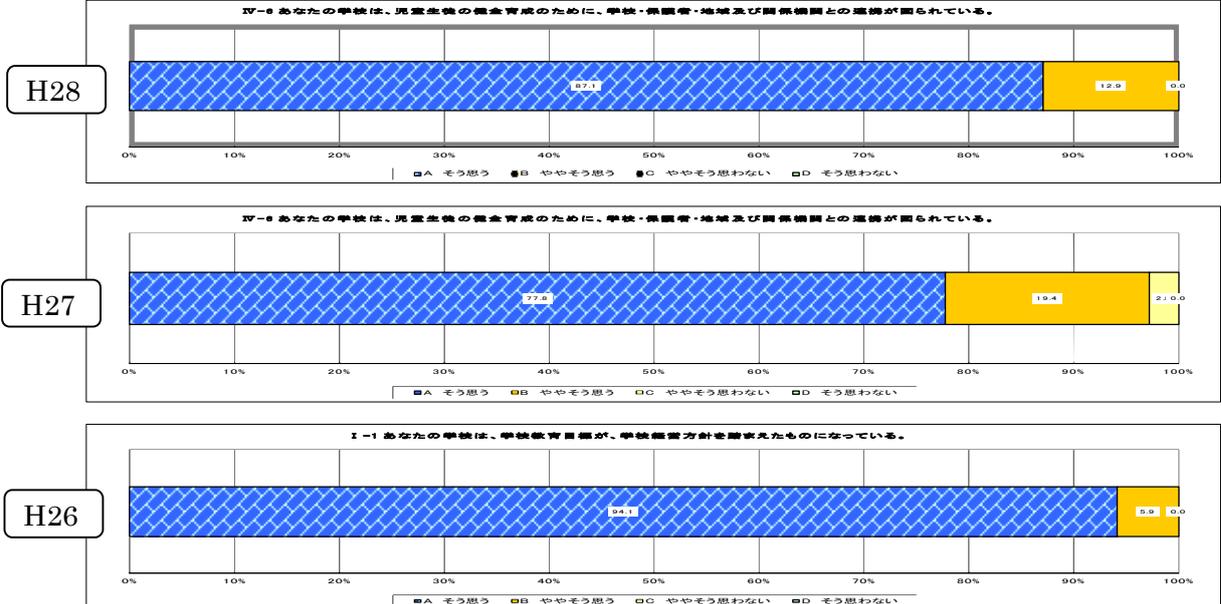
昨年度から学習規律を揃えた「竜の子 15 箇条」について取り組みを始めたが、今年度は下記のグラフのように、A（そう思う）の評価が約 10 ポイント向上し 90%を超えた。学習規律がより意識化され、全校体制で取り組んできた成果といえる。



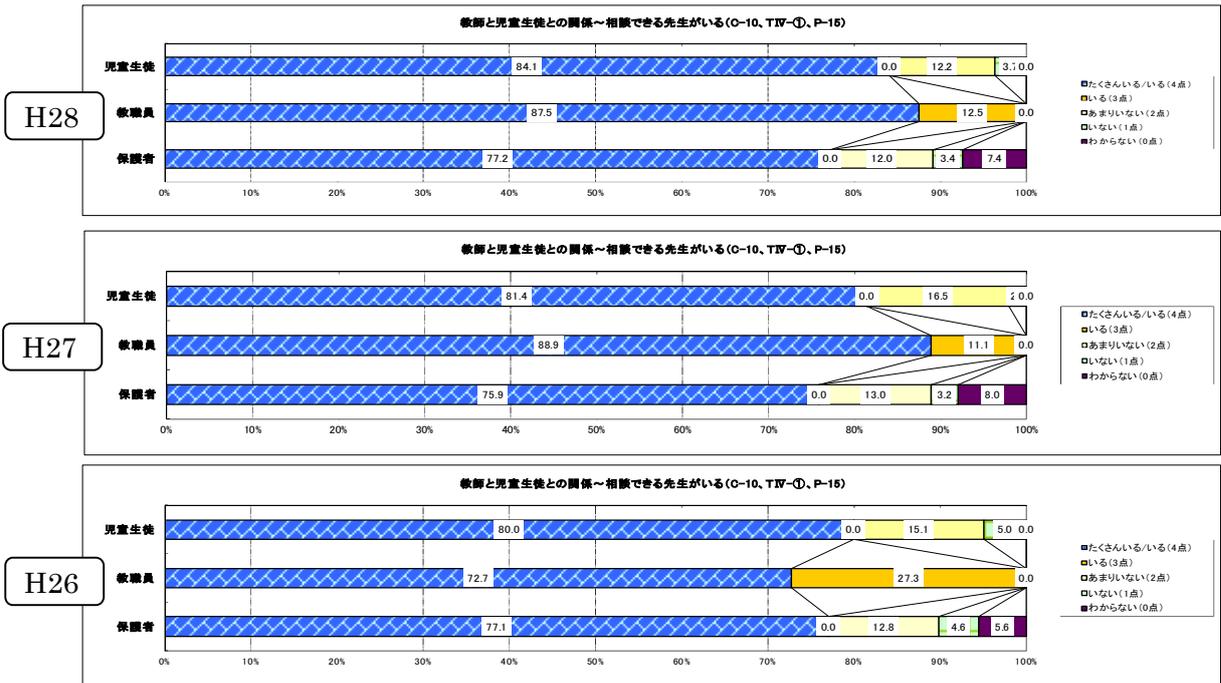
しかし「きまりや約束を守るように指導している」の設問に対して、教職員と児童・保護者の相関図を見ると、下記のグラフのように教職員と児童・保護者で大きな開きが見られる。3年間とも同じ傾向があるが、A（よくしている）の評価では「教職員>児童>保護者」となり、学校のきまりや児童が取り組んでいる学習規律の指導が教職員と保護者で温度差が見られる。学習規律などの学校で指導している内容が保護者まで周知しきれていないことなども考えられる。学年懇談などで話題に挙げるなど、本校で取り組んで成果を上げている「竜の子 15 箇条」の周知をさらに図っていく。



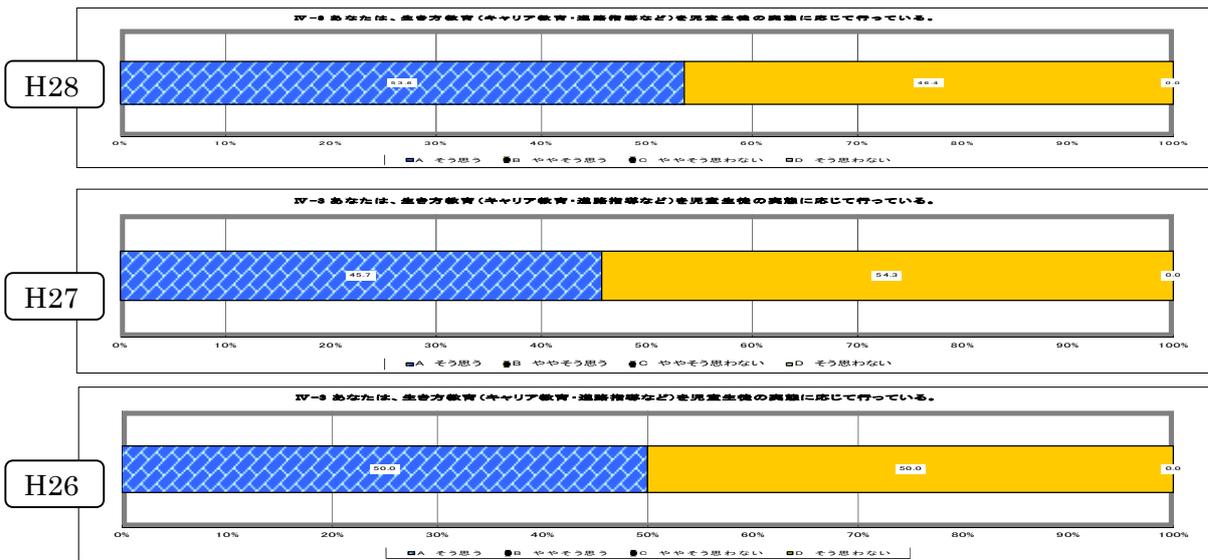
「児童生徒の健全育成のために、学校・保護者・地域及び関係機関と連携が図られている」の設問では、下記のグラフのように、今年度はC（ややそう思わない）の否定的な意見がなくなり、肯定意見が100%となった。生徒指導に対する組織的な対応と情報の共有化が図られているといえる。本校では、学校関係者評価委員会や協力者会議などを定期的に行い、地域の方から貴重な意見を伺うことで、地域から見守られているという安心が生まれ、児童の健全な育成が図られている。



児童アンケートの結果から「こまった時に相談できる先生がいるか」の設問に対しては、下記のグラフのように、A（いる）と答えた児童が、昨年度より2.4ポイントの向上し、84.1%となった。日々の丁寧な指導の成果といえるが、小人数であれC「いない」またはD「あまりいない」という児童に目を向け、さらなるきめ細かな指導が必要である。教職員と児童・保護者の相関関係を見ると、昨年度と比べても分布の傾向は「教職員>児童>保護者」と変わらないが、全体的には肯定意見が80%を超え90%に近づきつつある。日々の教育活動の成果が感じられるが、すべては児童のために、今後も誠意をもって児童と接し、児童や地域からも信頼される教職員をめざしたい。



「キャリア教育を児童の実態に応じて行っている」の設問については、下記のグラフのように、肯定的な意見は3年間とも100%であったが、今年度はそのうちA（そう思う）の評価が昨年度に比べ7.9ポイント向上し50%を超えた。学校教育の目指す「生きる力の育成」の土台となるのがキャリア教育であるが、本校で取り組んでいる代表的なものとして「家族にここ大作戦（1年）」「地区探検（2年）」「八幡芋栽培（3年）」「福祉体験（4年）」「森からみえる（5年）」「竜王遺産（6年）」など、自然体験や社会体験などを通して、生涯にわたって学び続ける意欲や社会を生き抜くために必要な知識や技能の育成を図ってきた。最近はアクティブラーニングなどとも言われているが、「習得した知識を活用して問題を解決していく」本校の学習スタイルそのものでもある。今後も実践を続け、さらなる向上を目指したい。



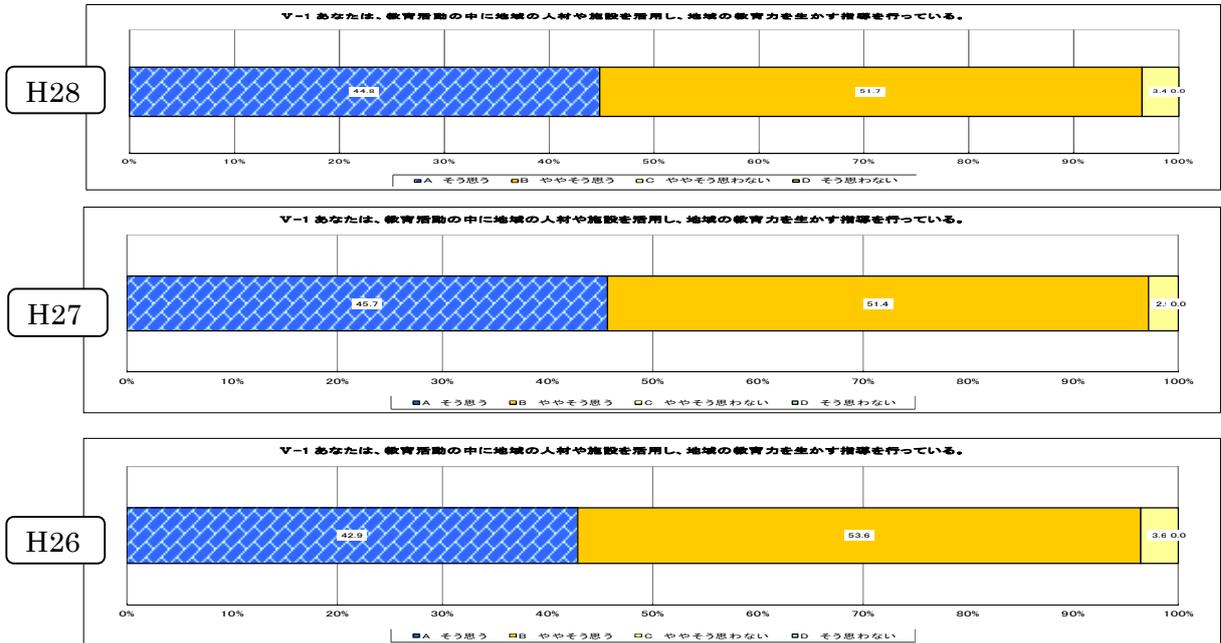
改善策
生徒指導については、すべての項目が100%の肯定的な意見で、学習規律を揃えた成果が出てきたといえるが、教職員と保護者では指導の度合いで大きな開きが見られた。本校のきまりをまとめた「竜の子15箇条」について、学級懇談会や学年懇談会などで周知し、学校と家庭で連携した指導を行っていく。また、常日頃から児童と寄り添い、あたたかいまなざしで児童に接して児童との信頼関係を深め、何でも相談できる関係をさらに強くしていきたい。

V 地域との連携について

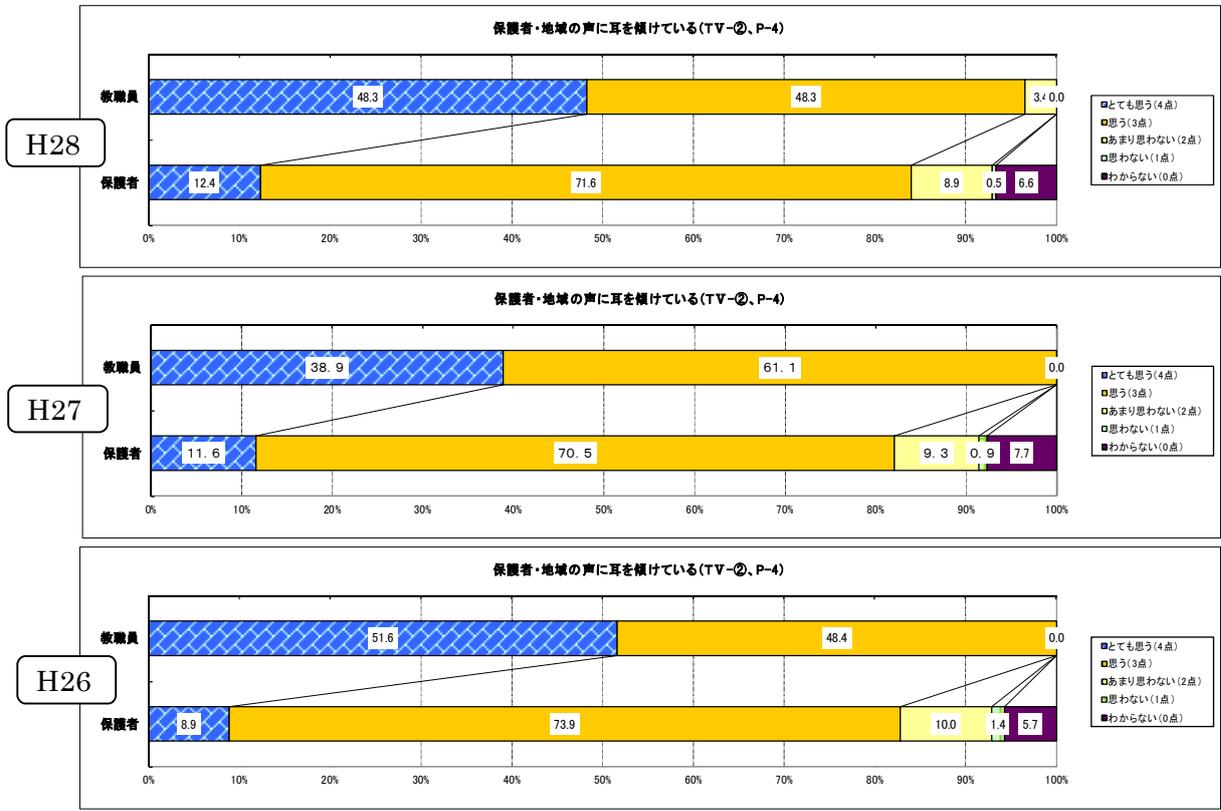
達成状況
「地域との連携について」は、A（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が、9項目中6項目が100%、3項目が95%以上と肯定的な意見が高い水準にあった。学校の活性化を図るには、地域の協力が不可欠であるが、おおむね良好であるといえる。

| 番号 | 項目 | H28評価 | | | | H27後期評価 | | | | H26後期評価 | | | |
|----|---|-------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|
| | | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D |
| | | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない |
| 1 | あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。 | 44.8 | 51.7 | 3.4 | 0.0 | 45.7 | 51.4 | 2.9 | 0.0 | 42.9 | 53.6 | 3.6 | 0.0 |
| 2 | あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。 | 48.3 | 48.3 | 3.4 | 0.0 | 38.9 | 61.1 | 0.0 | 0.0 | 51.6 | 48.4 | 0.0 | 0.0 |
| 3 | あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。 | 78.8 | 21.2 | 0.0 | 0.0 | 94.3 | 5.7 | 0.0 | 0.0 | 88.2 | 11.8 | 0.0 | 0.0 |
| 4 | あなたは、PTA活動に主体的に参加している。 | 72.4 | 24.1 | 3.4 | 0.0 | 58.3 | 38.9 | 2.8 | 0.0 | 62.5 | 31.3 | 6.3 | 0.0 |
| 5 | 保護者は、PTA活動に協力的である。 | 61.3 | 38.7 | 0.0 | 0.0 | 61.1 | 38.9 | 0.0 | 0.0 | 46.9 | 50.0 | 3.1 | 0.0 |
| 6 | 地域・保護者は、児童生徒の安全確保に努めている。 | 78.1 | 21.9 | 0.0 | 0.0 | 83.3 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 75.8 | 21.2 | 3.0 | 0.0 |
| 7 | 保護者は、学習指導や生活指導に協力的である。 | 54.8 | 45.2 | 0.0 | 0.0 | 58.3 | 41.7 | 0.0 | 0.0 | 43.8 | 53.1 | 3.1 | 0.0 |
| 8 | あなたの学校では、学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に生かされている。 | 87.5 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 80.6 | 19.4 | 0.0 | 0.0 | 84.8 | 15.2 | 0.0 | 0.0 |
| 9 | あなたの学校では、協力者会議を定期的に開催し、学校教育への理解と地域教育の向上に努めている。 | 87.5 | 12.5 | 0.0 | 0.0 | 88.6 | 11.4 | 0.0 | 0.0 | 93.5 | 6.5 | 0.0 | 0.0 |

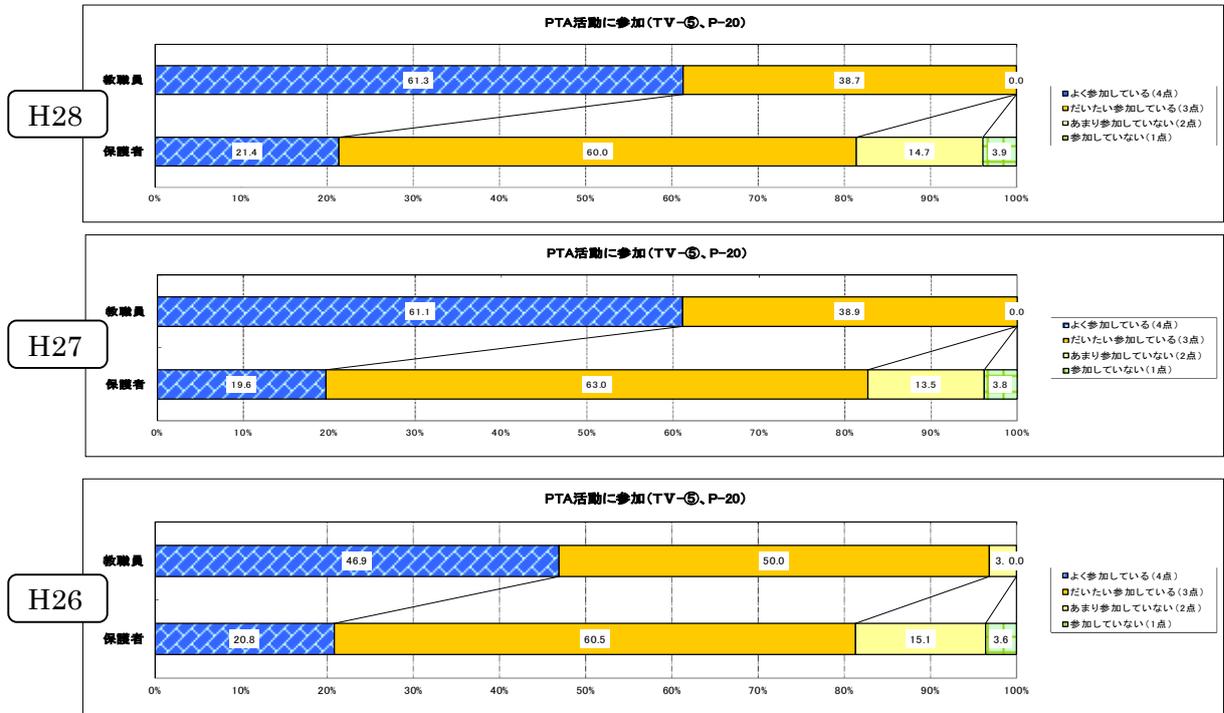
「地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っているか」の設問について、下記のグラフのように、肯定意見が年々少しずつではあるが向上してきている。今後も地域に開かれた学校を目指し、積極的に取り組んでいきたい。



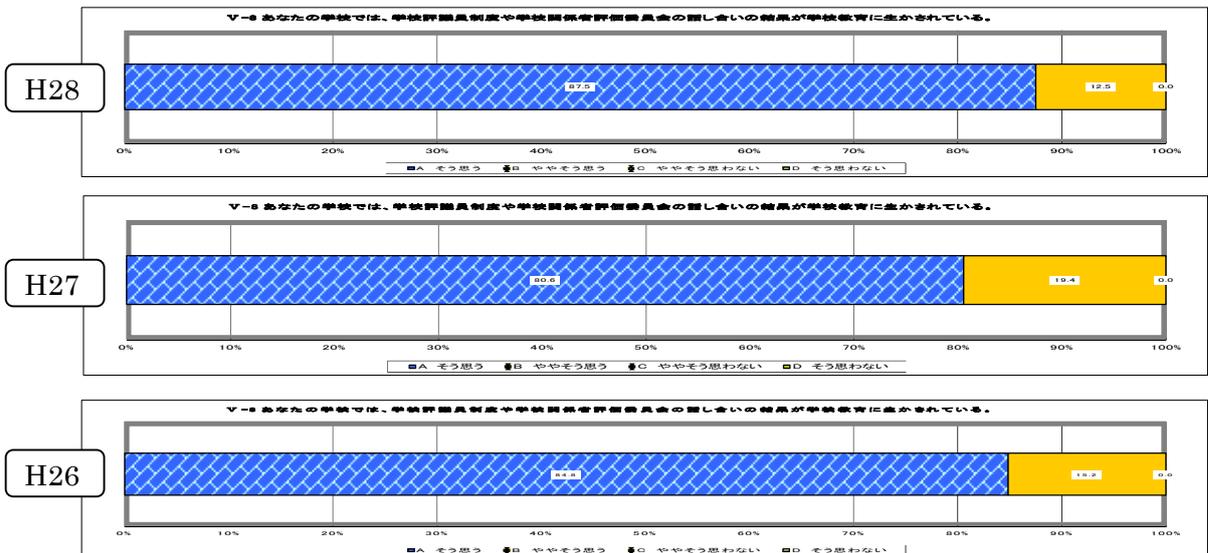
「保護者・地域の声に耳を傾けている」の設問では、下記の相関図を見ると肯定的な意見が多いが、今年度はC（あまり思わない）が3%あったが、地域との連携を深めるためにも、職員が連携して100%を目指したい。教職員と保護者の間にも大きな開きが見られるが、教職員と保護者がコミュニケーションをとる機会が少なく、学年の懇談会やPTA活動への参加が少ないことなども原因の一つと考えられる。



「PTA活動への参加」の設問については、下記の相関図を見ると、3年間とも保護者の肯定的な意見は80%台であるが、否定的な意見も20%ある。学校の教育活動に積極的に参加できない保護者がいるが、その保護者をどのように参画させ、学校と保護者が連携していくか考える必要がある。今年度は、運動会の場所取りの抽選を夏休み中の奉仕作業で行ったが、参加者は例年の倍近くあった。学校行事と絡ませて保護者の参加を募り、連携改善を図りたい。



「学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合い結果が学校教育に活かされている」の項目については、下記のグラフにあるように、昨年度に比べてA評価が16.9ポイント向上した。学校評価の意義を職員がしっかりと理解していることを表している。



改善策

例年と同じ傾向を示していたので、今後も家庭や地域に開かれ、信頼される学校づくりを推進し、地域との連携を深めるとともに、地域教材や人材を教育資源として活用し、地域の教育力を生かした教育活動に取り組んで行く。

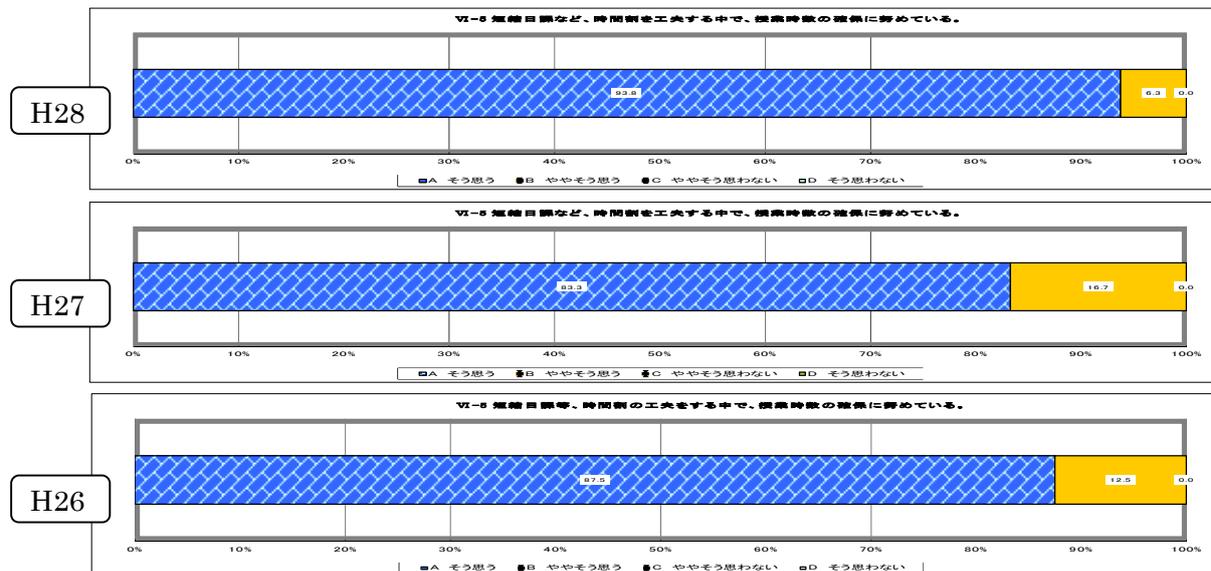
VI 学校の特徴に関して

達成状況

「学校の特徴に関して」は、5項目でA（そう思う）とB（ややそう思う）の合計が100%、1項目が95%以上と高い値を示し、満足した活動を行っていることがわかる。「挨拶活動」「読書活動」「児童会活動」については、竜王小学校の大きな特徴として今後とも活動を深めていきたい。

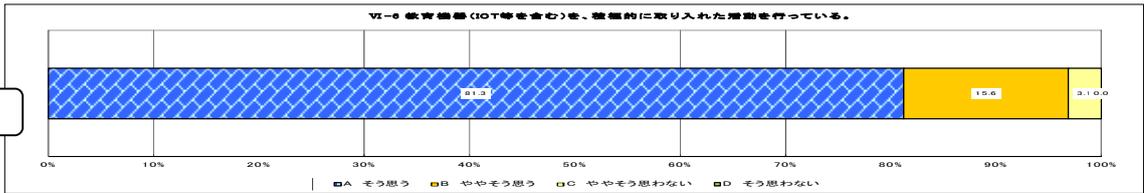
| 番号 | 項目 | H28評価 | | | | H27後期評価 | | | | H26後期評価 | | | |
|----|-----------------------------------|-------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|---------|--------|----------|------|
| | | A | B | C | D | A | B | C | D | A | B | C | D |
| | | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない | そう思う | ややそう思う | ややそう思わない | 思わない |
| 1 | 児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている。 | 87.9 | 12.1 | 0.0 | 0.0 | 91.7 | 8.3 | 0.0 | 0.0 | 81.8 | 18.2 | 0.0 | 0.0 |
| 2 | 授業参観日や学校開放日を保護者や地域に伝え、定期的を実施している。 | 90.9 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 97.2 | 2.8 | 0.0 | 0.0 | 96.8 | 3.2 | 0.0 | 0.0 |
| 3 | 児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。 | 84.4 | 15.6 | 0.0 | 0.0 | 80.6 | 19.4 | 0.0 | 0.0 | 84.4 | 15.6 | 0.0 | 0.0 |
| 4 | 「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。 | 81.8 | 18.2 | 0.0 | 0.0 | 83.3 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 90.6 | 9.4 | 0.0 | 0.0 |
| 5 | 短縮日課など、時間割を工夫する中で、授業時数の確保に努めている。 | 93.8 | 6.3 | 0.0 | 0.0 | 83.3 | 16.7 | 0.0 | 0.0 | 87.5 | 12.5 | 0.0 | 0.0 |
| 6 | 教育機器（ICT等を含む）を、積極的に取り入れた活動を行っている。 | 81.3 | 15.6 | 3.1 | 0.0 | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 81.3 | 18.8 | 0.0 | 0.0 |

下記のグラフから昨年度に比べると「授業時数の確保」はA（よく確保されている）が10.5ポイント向上した。大雪による授業時数の減少に対応すべく、短縮授業などを行い授業時数の確保を行ってきた成果がでている。

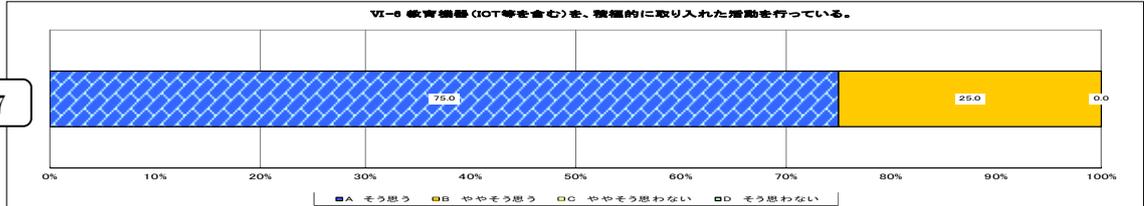


「教育機器（ICT）を積極的に取り入れた活動を行っているか」の設問では、次のようなグラフからA（よく活用している）が6.3ポイント向上し、児童の学力向上に向けて取り組んできた成果が表れている。しかし、C（ややそう思わない）も3.1%ある。iPadの導入から4年。今年度はwindowsタブレットも導入されICT機器も充実してきた。学習ツールとしてICT機器を活用した授業も広まり教職員の情報リテラシーが向上してきた。機能が多様化、複雑化したことにより、難しいと感じる教職員も出てくる。そのために、使い方を振り返る研修会や個別の操作指導を情報教育担当者とともに進めていきたい。

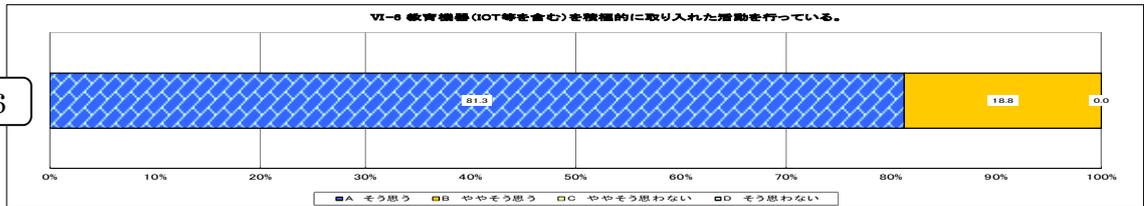
H28



H27

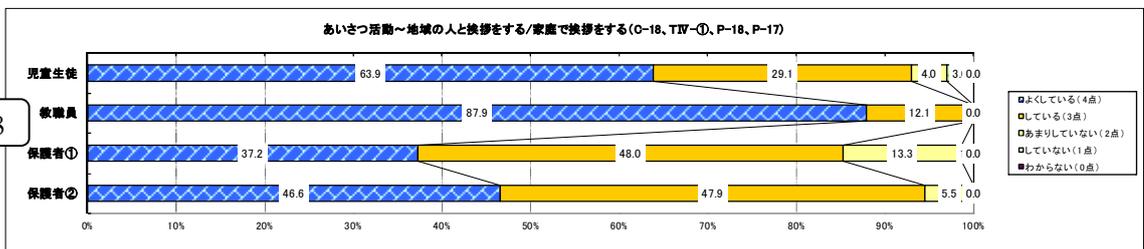


H26

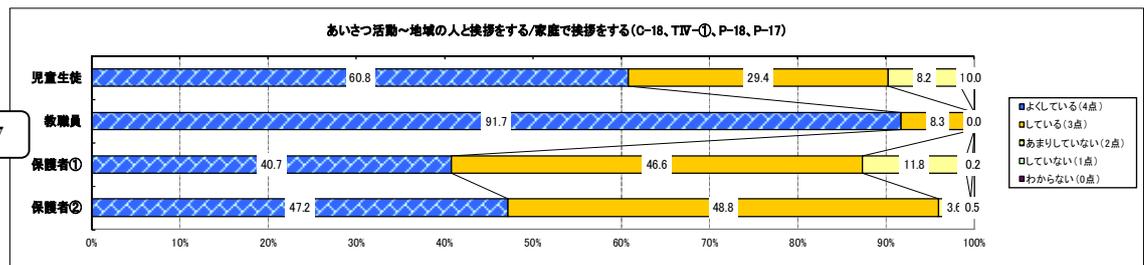


「あいさつ活動」の設問については、下記の相関図のように、小中連携での取り組み成果も見られ、肯定的な意見は少しずつではあるが向上してきている。しかし教職員と保護者。児童とは大きな開きが見られる。今後も挨拶運動は継続的な取り組みを続けて定着を図りたい。

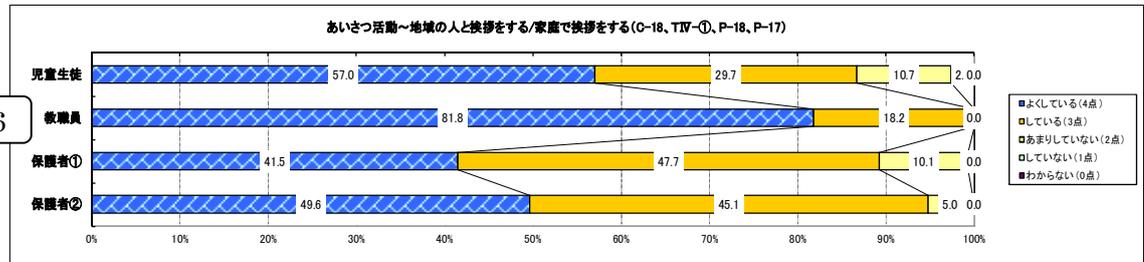
H28



H27



H26



3 まとめ

〈成 果〉

- ・学校経営や学校運営等，教育活動全般について，肯定的な評価が高いものが多く見られた。
- ・ほとんどの児童が学校や授業を楽しく感じ，頑張っている姿をうかがうことができた。児童の理解を深めることで，健康で安心した学校生活を過ごすことができる基盤ができた。また，学校での様々な取り組みの中での問題にも個に応じて素早く対応できる体制ができ，よりよい指導へ繋げることができた。
- ・学校評価については，職員会議等で職員の共通理解を図り，今後の学校運営や教育改善の参考資料としていく。
- ・学校関係者評価委員会や協力者会議をはじめ，地域との連携により開かれた学校づくりを目指しているが，今後の話し合いの内容を職員に周知させ，有効な教育活動を計画していきたい。学校からの情報発信や学校の様子を共有していただくことで成果を上げることができた。今後とも計画的に実施していきたい。
- ・生徒指導について，問題行動への対応や指導體制や情報の共有化などがしっかりとなされているという結果が出ているので，今後も続けていきたい。職場での健康管理や特別支援教育の体制の充実，生徒指導等，全校体制で児童の指導に当たれるよう，職員間での共通理解を図り，お互いの意見を密に交換することで改善を図ることができた。
- ・困ったことがあったら，相談できる友達や先生がいる児童が84%を超えている。16%の児童の相談相手になれるよう積極的な関わりをもっていきたい。
- ・少しずつ家庭学習の習慣がついてきている児童が増えている。今後もさらに学習の質を向上させる指導を続けていきたい。

〈課 題〉

- ・学校評価（教職員自己評価・児童アンケート・保護者アンケート）の調査結果について，教職員一人一人が真摯に受けとめ，今後も肯定的な回答率100%を目指していく。今年度から，年1回の調査となったが，経年的な変化を視野に入れながら，継続的な分析を行い，学校の課題改善につなげていきたい。
- ・多くは肯定的な回答であったが，その裏にある少数の否定的な児童に対しても，より細かく丁寧な見取りや対応が必要となってくる。併せて，児童とのコミュニケーションを深める中で，児童や保護者との信頼関係を築きながら，問題行動（いじめや不登校等）への早期発見，早期対応を図っていく。
- ・問題解決型学習やICT機器の効果的な活用など，今年度までの研究を生かし，児童が進んで質問や意見を出し合い，自ら学べるような授業づくりを進める。
- ・学習規律や話形モデルなどの発言のルール等について，しっかりと身につけているか評価していく。
- ・家庭学習の指導を継続して学力の向上を目指すとともに，家庭と連携して学習規律の確実な定着を図る。
- ・職員の福利厚生では向上が見られ，休むときには休めるようになってきたが，公開研究会や行事に向けて帰宅する時間が遅くなる傾向にある。自分だけ早く帰るのは申し訳ない気持ちになって帰りにくい時もあったので，遠慮せず「帰れる時には帰る」ことを運営委員会で確認した。帰れる雰囲気をつくり，しっかりと身体を休められる職場環境を目指す。今後さらにその雰囲気を広げたい。

